



酒井はやみ 議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問 義務教育学校開校に向けた取組について

答 児童生徒の意見を聞き取りながら開校に向けた準備を進める



問 令和8年度からの義務教育学校「まくべつ学園」が、児童生徒の声を十分反映し、「通いたくなる学校」「居心地のよい学校」としてスタートし、運営されることが期待される。以下伺う。
(1)子どもたちから「どんな学校にしたいか」についてどのような意見が出され、活かされているか。
(2)5、6年生のリーダーシップを発揮する機会について、どのように議論し対策を検討しているか。
(3)学年区分や授業時間、テストの導入について、どのように議論され決定されているか。
(4)開校後の心のケアのサポート体制は。

教育長

(1)令和6年4月に実施したアンケートの自由意見には、低学年の「仲よく」「楽しく」、中・高学年は、1年生から9年生の義務教育学校を意識したもの、中学校では、小中学校の関わりや交流についての意見が多かった。
施設や遊具に関する意見等は、

改修工事や外構工事の参考にした
いと考えている。

(2)異なる学年が学習や活動を共に
行う場を積極的に設け、上級生が
下級生をサポートする仕組みを取
り組むことにより、リーダーシッ
プを育む環境を確保し、成長の機
会が得られるものと考えている。

(3)まくべつ学園の教職員で構成す
る開校部会において、教育課程区
分は、初等部4年、中等部3年、
高等部2年とする4・3・2制を導
入することとし、開校準備委員会
に諮り決定した。

教科担任制を中部部からさらに
拡大し、50分授業とすることで振
り返りや復習を丁寧に行うなど、
学力向上と小・中学校間の円滑な
接続に取り組みと伺っている。

テストや学校行事などは、開校
部会でさらに検討を重ね、議論が
進められるものと考えている。

(4)必要に応じて個別に面談を行
い、スクールカウンセラー等を活
用するなど、必要な支援を行って
いきたい。

問 不登校の子どもに寄り添った
支援を

答 関係機関と連携を図りなが
ら対応していきたい



問 不登校の児童生徒が
34万6482人と、11年連
続で過去最多となった。幕別町で
も令和5年度は58人と前年度に比
べ11人増加し、増加傾向にある。
それぞれの児童生徒と保護者に寄
り添い、学びの場を保障するとと
もに、すべての子どもが安心して
通える学校づくりが求められる。
(1)不登校児童生徒の今年度の見通
しも含めた過去の推移は。
(2)子ども交流施設「まつく・ぎ・
まつく」、不登校親子まなびサロ
ン「Nanmo」の利用状況は。
(3)フリースクールへの通学を援助
する考えは。
(4)すべての子どもが安心して通え
る学校づくりに向け、どう取り組
むのか。

教育長

(1)過去5年間における不登校児童
生徒数の推移

年度	小学校	中学校	合計
令和元年度	6人 (1校)	29人 (5校)	35人 (6校)
令和2年度	5人 (1校)	27人 (3校)	32人 (4校)
令和3年度	6人 (5校)	47人 (4校)	53人 (9校)
令和4年度	6人 (3校)	41人 (5校)	47人 (8校)
令和5年度	13人 (5校)	45人 (5校)	58人 (10校)
令和6年度 (R7.1月末現在)	27人 (6校)	46人 (5校)	73人 (11校)

(2)「まつく・ぎ・まつく」の恒常
の利用者は、令和4年度は小学
生1人、中学生8人、5年度は小学
生1人、中学生7人、6年度(1
月末現在)は小学生2人、中学生
5人。「Nanmo」の平均参加
者数は3人程度となっている。
(3)現在のところ交通費を支援する
考えはない。
(4)学校と十分に連携して環境を整
え、関係機関と一層連携を図りな
がら対応していきたい。

再質問

不登校で苦しむ子どもたちをこ
れ以上増やさず、誰もが通える学
校づくりを進めるために、町とし
て議論の場を設置する考えは。

答

引き続き学校現場と情報共有し
ながら、きめ細かく対応してい
きたい。